

令和元年度 JERT 主催 「救急撮影講習会 in 香川」 参加記

香川県立中央病院 放射線部 篠原沙耶香

令和元年 5 月 19 日、サンポート高松で開催された救急撮影講習会を受講しました。

私自身、3 次救急の病院で働き 4 年経ちますが、このような講習会に参加したのは初めてでした。全国各地から参加者がいらっしやったようで、今回香川でこのような機会があり参加できたこと、大変嬉しく思います。

CT や MRI 撮影時の急変は、私自身遭遇したことがあります。その時に出来たことといえば、救急カートを持ってくる、くらいだったように思います。その異常時、ABCDE アプローチに沿って医師や看護師の方々行っていること、何を見て何を考え対応をしているかなど、普段聞けない話を沢山聞くことが出来ました。

外傷における ABCDE アプローチにおいては、実際に何がどういった手順で行われているのか、実際の多発外傷の症例に沿って話していただきとても分かりやすかったです。各損傷に対する蘇生、優先順位等、PTD(防ぎ得た外傷死)を回避するために人数・多職種が連携し診療を行う必要があること、そしてその中で私自身が出来ること・すべきことが沢山あります。CT が死のトンネルとなってしまわぬよう、適切な画像を素早く提供することがまず第一だと改めて感じました。

また外傷 CT においては見逃してはいけないサインも教えていただきました。たとえば Slab MIP を作ることで、スライス厚やウィンドウを変えることで見えてくるものが沢山あり、まだまだ体験したことのない症例が多くあることを自覚し、ひとつひとつ頭に入れていかなければと思いました。

明日から実践できることといえば、何にせよ、ただ撮るだけでなく自分で考え、見たいものがきちんと見えるような画像情報の提供をしなければならないことです。その為には知識も必要ですし、素早く画像処理が出来るスキルと慣れも必要だと思いました。読影補助の重要性が言われている中で、診療放射線技師として救急業務を担う責任を考える機会にもなりました。また、患者の様子やバイタルサインに気を配ること、多職種としっかり連携すること・同じ方向を向くこと。コミュニケーションが不可欠だと感じました。

これからも沢山の症例を経験し、日々精進していきたくと考えます。

最後にこのような貴重な講習会を開催して下さった機構の方々、会場の準備・設営のスタッフの方々に感謝申し上げます。

令和元年 6 月吉日

